

## 学士への途 —岡山大学医療技術短期大学部 専攻科助産学特別専攻修了生の現状—

岡崎愉加 合田典子 白井喜代子

### 要 約

平成4年に岡山大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻は学位授与機構に認定された。5年目を迎えた今年、現在までを見直すために、平成4年度から平成7年度までの入学生80名のうち、短期大学の卒業生51名を対象とし、アンケート調査を実施した。その結果以下のことがわかった。

学位授与機構への申請経験者は6名(11.8%)で、その内2名は、現在申請中である。2名(3.9%)が合格し、看護学士の学位を取得していた。現在取得に向けて学修中の者は17名(33.3%)で、学修成果の作成に関して困っている者が多かった。取得の意志はあるが休止中の者は25名(49%)で、主な理由は仕事が忙しいことであった。取得の意志がない者は7名(13.7%)であった。

---

キーワード：学士の学位，学位授与機構，専攻科助産学特別専攻，大学の単位，学修成果

---

### はじめに

平成4年に岡山大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻(以後専攻科と略す)は学位授与機構に認定された。これを機に、助産婦を志すと同時に学士の学位の取得も目指す学生が入学することになった。専攻科では、在学中から学士の学位を取得可能にするため、放送大学等で大学の単位を修得できるようにカリキュラムを配慮したり、短大内でビデオ等が視聴できるようにした。その結果、平成6年には1名が専攻科在学中に学士の学位を取得した。しかしながら、専攻科は看護教育を修了した者に対し、助産学の専門教育を行うことを目的としており、短期大学卒業生以外の学生も入学していることから、学士の学位取得を考えている学生中心に教育を行ってはいない。そのため、専攻科修了後に学位授与機構への申請を行わなければならない学生がほとんどである。そこで、学位授与機構に認定されてから5年目を迎えた今年、現在までの見直しを考えるために、専

攻科修了生の現状を調査した。

### 対象と方法

平成4年度から平成7年度までの入学生80名のうち、短期大学の卒業生51名を対象とし、アンケート調査を実施した。51名中修業年限を3年とする短期大学の卒業生は49名、修業年限を2年とする短期大学の卒業生は2名であった。

### 結 果

#### 1. 修了生の背景

##### 1) 年齢

修了生の年齢は、22歳から30歳で、平均は23.9(±1.52)歳であった。

##### 2) 婚姻

未婚者は47名(92.2%)、既婚者は4名(7.8%)であった。

##### 3) 職業

助産婦または看護婦として就業中の者が47名

(92.2%)、学生が1名(2%)、専業主婦が3名(5.9%)であった。

#### 4) 学修を開始した時期

学士の学位取得に向けて学修を開始した時期は、専攻科在学中が44名(86.2%)、専攻科修了直後が3名(5.9%)、専攻科修了1年後が1名(2%)、未だ開始していないが3名(5.9%)であった。

### 2. 学位の取得について

#### 1) 学位授与機構への申請状況

学位授与機構への申請経験者は6名(11.8%)いた。そのうちの2名は、現在申請中である。過去に申請したことがある者4名のうち、2名が合格、2名が不合格であった。不合格の理由は1名が、単位不足と学修成果の内容が水準に達していないで、もう1名は、学修成果の内容が水準に達していないであった。

#### 2) 修了生の現状

学士の学位を取得した者が2名(3.9%)、取得に向けて学修継続中の者が17名(33.3%)、取得の意志はあるが現在は学修休止中の者が25名(49.0%)、取得の意志がない者が7名(13.7%)であった。

#### 3. 学位を取得した者

2名とも看護学士の学位を取得していた。取得の時期は1名が専攻科在学中で、もう1名は専攻科修了後2年であった。取得した学位を何に役立たいかについては、在学中に取得した者のみが進学と答えていた。

#### 4. 学位取得に向けて学修継続中の者

##### 1) 大学の単位修得状況

学修継続中の者17名中、必要な単位をすべて修得している者は7名(41.2%)、修得できていない者は10名(58.8%)であった。

##### 2) 学修成果の作成状況

学修成果を作成している者は3名(17.6%)、作成していない者は14名(82.4%)であった。

##### 3) 学位授与機構への申請経験

現在申請中の者が2名いた。過去に申請の経験がある者は1名のみで申請回数は1回であった。

##### 4) 取得の目的

進学が4名(23.5%)、昇進・昇給が2名(11.8

%)、具体的に考えていないが11名(64.7%)であった。

##### 5) 取得目標時期

現在から1年以内が7名(41.2%)、2年以内が3名(17.6%)、3年以内が5名(29.4%)、未定が2名(11.8%)であった。

##### 6) 困っていること

学位の取得に関して困っていることがある者は9名(52.9%)、ない者は8名(47.1%)であった。困っていることの内容は表1に示すように、学修成果についてが最も多かった。

表1 困っていること(学修継続中の者)

内 容	件数
学修成果の作成	6
・何が求められているのかわからない	(3)
・テーマの選択が難しい	(1)
・仕事との関係で作成が難しい	(1)
・誰に指導を受けたら良いのかわからない	(1)
大学の単位の修得	3
・勉強する暇がない	(1)
・テストが難しい	(1)
・どの科目を選択すればよいかかわからない	(1)
申請書類の作成	1
・申請書類の書き方がわからない	(1)
合 計	10

#### 5. 学位取得の意志はあるが学修休止中の者

##### 1) 大学の単位修得状況

学修休止中の者25名中、必要な単位をすべて修得している者は10名(40.0%)、修得できていない者は15名(60.0%)であった。

##### 2) 学修成果の作成状況

学修成果については、25名全員が作成していなかった。

##### 3) 学位授与機構への申請経験

過去に申請の経験がある者は1名のみで申請回数は1回であった。

##### 4) 取得の目的

進学が2名(8%)、教員になるが1名(4%)、進学した後教員になるが1名(4%)、具体的に考えていないが21名(84%)であった。学修の継続と休止に取得の目的の有無が関連している

か調べてみたが、有意差はなかった。

5) 取得目標時期

現在から1年以内が1名(4%)、2年以内が3名(12%)、3年以内が5名(20%)、5年以内が3名(12%)、10年以内が1名(4%)、未定が12名(48%)であった。学修の継続と休止に取得目標時期の有無が関連しているか調べたところ、目標時期を定めているのは学修継続中の者が有意に多かった(有意水準1%)。

6) 困っていること

学位の取得に関して困っていることがある者は13名(52%)、ない者は12名(48%)であった。困っていることの内容は表2に示すように、学修成果についてが最も多かった。

表2 困っていること(学修休止中の者)

内 容	件数
学修成果の作成 ・何が求められているのかわからない ・仕事との関係で作成が難しい ・誰に指導を受けたら良いのかわからない	8 (4) (2) (2)
大学の単位の修得 ・勉強する暇がない ・放送大学が遠距離で通学しにくい ・どの科目を選択すればよいかかわからない	3 (1) (1) (1)
申請書類の作成 ・申請書類の書き方がわからない	1 (1)
仕事が忙しい	3
合 計	15

7) 休止の理由

表3に示すように、仕事を理由とする者が最も多かった。

表3 学修休止の理由

内 容	人数(%)
仕事	10(40)
放送大学が遠距離で通学しにくい	4(16)
結婚・育児	4(16)
他の学習をしている	2(8)
意欲が湧かない	2(8)
経済的な理由	1(4)
不明	2(8)
合 計	25(100)

6. 学位取得の意志がない者

1) 意志の喪失時期

現在学位取得の意志がない者7名中、最初から意志のなかった者は1名(14.3%)、途中から意志がなくなった者は6名(85.7%)であった。途中から意志がなくなった者6名中、必要な単位をすべて修得している者は1名いたが、学修成果については全員が作成していなかった。

2) 意志喪失の理由

最初から意志のなかった者の理由は、必要性を感じないであった。途中から意志がなくなった者の理由は表4に示す通りである。

表4 意志喪失の理由

内 容	人数(%)
他のことに興味がある	2(33.3)
必要性を感じなくなった	2(33.3)
仕事が忙しい	1(16.7)
放送大学が遠距離	1(16.7)
合 計	6(100)

7. 修得した単位

専攻科在学中に単位を修得した者は44名であった。修得した単位と人数は、図1に示す通りである。このうち、申請に必要な単位を修得した者は、(人数)

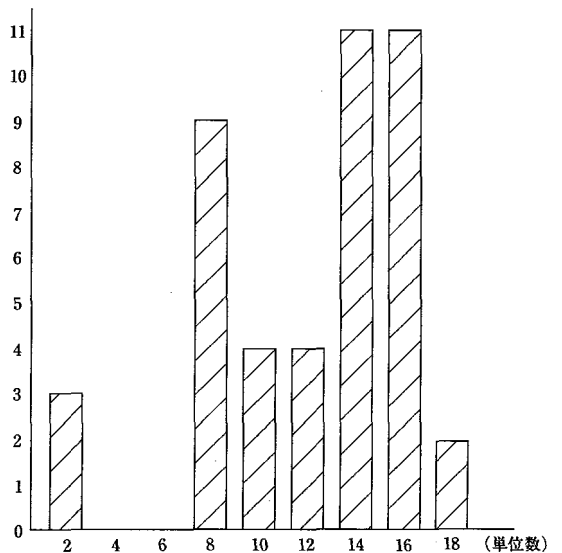


図1 専攻科在学中に修得した単位と人数

13名(29.5%)であった。専攻科修了後に単位を修得した者は13名であった。修得した単位と人数は、図2に示す通りである。

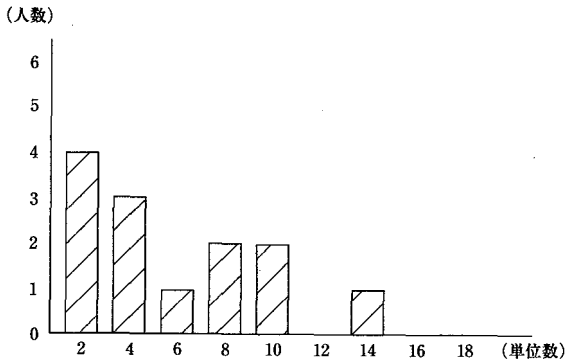


図2 専攻科修了後に修得した単位と人数

8. 単位を修得した大学

在学中に単位を修得した大学は、放送大学と岡山大学であった。修了後に単位を修得した大学は放送大学のみであった。

9. 専攻科への意見

専攻科への意見の内容は、表5に示す通りである。

表5 専攻科への意見

内 容	件数
在学中に放送大学を受講できて良かった	2
在学中の方が就職後より勉強するには容易な環境であった	2
学位授与機構のことで学習や学位取得の動機付けになった	1
先輩からの情報を集めて掲示して欲しい	1
助産学総合研究のテーマで学修成果を作成すれば良かった	1
合 計	7

10. 専攻科への質問

専攻科への質問の内容は表6に示すように、学修成果に関するものが最も多かった。

考 察

学位授与機構<sup>2)</sup>は、国立学校設置法及び学校教育法の一部改正により、平成3年7月1日に設置された。その業務のひとつに、短期大学・高等専門学校卒業生等が大学等においてさらに一定の学

表6 専攻科への質問

内 容	件数
学修成果の作成	7
・レポートには何が求められているのか	(2)
・どのようなテーマで合格したのか	(2)
・レポートの具体例など参考にできるものはないか	(2)
・どのような形式で書いたら良いか	(1)
学位授与機構への申請書類の書き方	3
学士の学位取得が何に役立つのか、活用できるのか	2
放送大学以外の通信教育で単位を取る方法について	1
合 計	13

修を行った場合の学士の学位の授与<sup>3)</sup>がある。専攻科の学生が学士の学位取得を希望した場合、まず大学の単位を必要数修得し、学修成果を作成しなければならない。それから申請書類を書いて申請し、試験を受け、合格して初めて学士の学位を取得できる。最初から学士の学位を取得する意志のなかった1名を除く50名のうち、学位を取得した者は2名(4%)のみで、42名(84%)が意志はあるが取得できていない状況であった。また、6名(12%)が取得の意志を喪失していた。その原因と今後検討すべき改善策について、申請までの過程別に考えた。

1. 大学の単位修得について

専攻科在学中の方が、修了後より多くの単位を修得していた。また、必要な単位の修得を専攻科修了後に延期した者35名のうち、現在までに修得を完了した者は7名(20%)しかおらず、残り28名(80%)が完了できていなかった。現在修了生の92.2%が就業しており、就職1~4年目にあたる。助産婦・看護婦という職業の専門性から見て、1・2年目は仕事に慣れること、または慣れるための学習が優先される。3~4年目になると就職先での研究や後輩の育成が任せられる。そのような状況の中で、大学に通学し単位を修得することはかなりの努力が必要である。活動休止の理由で最も多かったのが、仕事が忙しいであった。困っていることの内容に、仕事に関するものが多くあった。また、就職先が放送大学の学習センターか

ら遠距離であったため、通学が困難となり学修休止中の者もいた。前にも述べたように、専攻科では放送大学等で大学の単位を修得できるようにカリキュラムを配慮したり、短大内でビデオ等が視聴できるようにしている。以上のことから、大学の単位は専攻科在学中の方が修得しやすいといえる。在学中に必要な単位が修得できるよう、学生への十分な指導が必要である。

## 2. 学修成果について

学修成果の作成に困っている者は14名いた。そのうち必要な単位を修得できている者は12名(85.7%)いた。単位は取れたものの、学修成果の作成が難しいため、申請まで到達できていないと考えられる。特徴的なのは、レポートの書き方がわからないのではなく、レポートの内容に何が求められているのかがわからないため、作成にとりかかれていないことであった。学修成果に関する説明は、学位授与機構が発行している新しい学士への途という冊子の中に、「学修成果とは、専攻に係る特定の課題(テーマ)についての学修の成果をいい、原則としてレポートとします。テーマは申請者がすでに単位を修得した専門的科目を基礎として、自ら設定してください<sup>4)</sup>。」と書かれている。冊子にはレポートの様式等については詳しく書かれているが、その内容については具体的に示されていない。学士の学位は専攻の区分が多岐に渡るため、その一つ一つについて具体的に示すことが不可能であることは理解できる。しかし、学生からみれば、具体的にどのようなものを書いたら良いのかわからないことは大きな不安であり、作成に取りかかれ原因でもある。また、作成に関して誰に指導を受けたら良いかわからない者もいた。以上のことから、学修成果の作成に関しては、合格者のレポートなど情報を集めて、修了生からの相談を受けられるようにして行くことが必要である。

## 3. 学位授与機構への申請について

今回の調査では、学位授与機構への申請について困っている者は2名のみであったが、これは申請の段階に到達している者が少ないためであると

考える。また、申請経験者からも申請書類の作成に苦勞したという声を聞いている。学位授与機構<sup>5)</sup>では、リーフレット(学士の学位授与制度を簡略に説明)、新しい学士への途(学士の学位授与制度の詳細を説明)、学位授与申請書類等(申請に必要な書類等一式)、科目等履修生制度の開設大学一覧、学位授与機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧を発行している。したがって、これら冊子等の紹介と請求方法や学位授与機構への申請方法について、在学中にオリエンテーションする必要がある。

## ま と め

学士の学位取得について、修了生の現状を調査し以下のような結果を得た。

学位授与機構への申請経験者は6名(11.8%)で、その内2名は、現在申請中である。2名(3.9%)が合格し、看護学士の学位を取得していた。現在取得に向けて学修中の者は17名(33.3%)で、学修成果の作成に関して困っている者が多かった。取得の意志はあるが休止中の者は25名(49%)で、主な理由は仕事が忙しいことであった。取得の意志がない者は7名(13.7%)であった。

平成7年8月現在、看護学士の学位の授与者数は、全国で110名<sup>3)</sup>とまだ少ない。今回の調査でも申請経験者は6名しかおらず、資料の収集は十分でない。今後は、修了生の協力も得ながら学位授与機構に関する資料を収集し、学生が自由に閲覧できるように努める必要がある。

## 文 献

- 1) 岡山大学医療技術短期大学部概要—平成8年度—。岡山大学医療技術短期大学部、岡山、10、1996。
- 2) 学位授与機構広報委員会(編)：学位授与機構ニュース1：3、1994。
- 3) 学位授与機構の概要平成7年度。学位授与機構、神奈川、1-4、1995。
- 4) 新しい学士への途—平成8年度版—。学位授与機構、神奈川、8、1995。
- 5) 学位授与機構広報委員会(編)：学位授与機構ニュース3：11、1995。

The way to a Bachelor's degree :  
state of graduates from advanced course of midwifery,  
School of Health Sciences Okayama University

Yuka OKAZAKI, Noriko GODA, Kiyoko SHIRAI

**Abstract**

In 1992, Advanced Course of Midwifery, School of Health Sciences Okayama University was recognized by National Institution for Academic Degrees. This year, the fifth from its recognition, we performed a questionnaire survey in 51 junior college graduates among the 80 individuals who took the course from 1992 to 1995 to reevaluate the program.

Six graduates (11.8%) had applied for a degree to the National Institution for Academic Degrees including 2 whose applications were under evaluation. The applications had been accepted in 2 of them (3.9%), and they had received the degree of Bachelor of Nursing. Seventeen graduates (33.3%) were studying with the hope to obtain the degree, but many of them had difficulty with preparation of the reports of the results of their learning and training. Twenty five (49%) had the hope to obtain the degree but were not making preparations, primarily because they were occupied by work. Seven (13.7%) had no desire to obtain the degree.

---

**Key words :** Bachelor's degree, National Institution for Academic Degrees,  
advanced course of midwifery, credits, results of learning and training

---

School of Health Sciences, Okayama University